活躍する仁賀保高校



令和8年の夏、文化部のインターハイとも呼ばれる第50回全国高等学校総合文化祭が、秋田県で45年ぶりに開催されました。全国各地から約2万人の高校生が集い、総合開会式とパレードからなる開会行事を皮切りに、19の規定部門と開催県独自に行う協賛部門で展示、発表、競技等が繰り広げられたほか、海外から3カ国の団体(高校生)を招き、県内高校生と文化交流を行いました。

あきた総文2026

eスポーツ部が情報部門で参加



仁賀保高校のeスポーツ部は協賛部門である情報部門に加盟しており、初の参加となりました。

7月28日・29日の2日間、秋田市文化創造館を会場に「情報部門」が開催され、日頃の活動の成果を披露しました。参加各校からそれぞれ、VRやプログラミング、ロボット、ドローン、3Dプリンターなど最新の技術に触れられるブースが開設されました。

仁賀保高校eスポーツ部のブースにも多くの来場者が足を運び、高校生からアドバイスを受けながら情報技術の楽しさや可能性の広がりについて触れる機会になりました。

全国専門学科情報科研究協議会

全国の情報科がにかほに集結



8月18日・19日の2日間、仁賀保高校を主催校として全国専門学科情報科研究協議会が開催されました。

仁賀保高校の2・3年生も、AIを活用したクマ検知システムや、鳥海山噴火の3DCGシミュレーション動画を発表。情報メディア科で学ぶデジタル技術を地域の課題解決に生かす取り組みを、全国から集まった参加者に紹介しました。

協議会プログラム表紙
仁賀保高校 2年 齋藤凛

野球部5年ぶりに単独出場!



7月10日、仁賀保高校野球部が第108回全国高校野球選手権秋田大会に、5年ぶりとなる単独校で出場しました。11人の選手全員が出場し、最後まで全力でプレー。全校生徒による応援に加え、吹奏楽部OB・OG、同窓生、保護者など多くの方々も駆けつけ、学校と地域が一体となって選手たちに声援を送りました。

ACMF 2026 in にかほ市

ACMF2026inにかほ市

9月26日と27日の2日間、秋田キャラバン・ミュージック・フェス(ACMF)2026inにかほ市が象潟グラウンドを会場に開催されました。このフェスは、横手市出身のシンガーソングライター高橋優さんが「音楽の力で秋田を盛り上げよう」と2016年にスタートさせた地域密着型の野外音楽フェスです。今回のにかほ市での開催は8回目です。

フェスの2日間は天気にも恵まれ、トンボが舞う絶好のフェス日和となりました。主催者発表で、両日合わせて1万6千人の観客が訪れ、ステージ右手に鳥海山を仰ぎ、夕方過ぎには東の空に満月を眺めることができ、にかほ市の景色が存分に取り込まれたおもてなしとなり来場者のみなさんに大いに喜んでいただけたものと感じています。実際、フェスが終わってからの数日間、さまざまな人々の興奮冷めやらぬ声がXやインスタなどのSNSにあふれかえっていました。しかもその声は決して若者たちからだけではなく、年配のみなさんからも発せられ、「高橋優さんの秋田愛、出演者の温かさと熱量に感動した」といった声が多数見られました。まさに「音楽の持つ力」の大きさと可能性に多くの人があらためて気づく機会となったのではないでしょうか。かく言う私も、今回のACMFに感動し、音楽の持つ力強さ、ミュージシャン高橋優さんの魅力に心底やられた一人です。

高橋優さんの思いとは

高橋優さんが秋田キャラバン・ミュージック・フェス(ACMF)を始めたきっかけは、2015年の「あきた音楽大使」への就任でした。もともと高橋優さんは「人口減少率や高齢化率が全国1位とされ、気分が落ち込んでいる秋田の人々に元気になってもらいたい」との思いを持っていましたが、その思いをどのように表現し、一つの大きな流れにしたらよいのか考えあぐねていました。そんなときに音楽大使に任命されたことで、自ら持つシンガーソングライターとしての技の力、プロのミュージシャンとしての技を存分に使い、ふるさと秋田を元気にする絶好の機会と捉え「ACMF」を具体化していったわけです。

ここまでのお話は、本人との対話や、これまでの発言を見返したうえでの私の意見です。ですので、仮に本人の思いと多少のズレがあったとしても、私から確実に言えることは、高橋優さんのふるさとに対する熱い想いは「ホンモノ」だということです。だからこそ他の多くのミュージシャンやタレントのみなさんがこのフェスに参加し、高橋優さんを通じて秋田を応援してくれるのだと思います。

ACMFの意義

この秋田キャラバン・ミュージック・フェス(ACMF)の最大の特徴は、毎年開催地を変えて県内13市をめぐる「キャラバン(巡回)型」であるところです。このフェスは「移動する秋田の地方創生プロジェクト」と言われ、開催地の自然・食・文化などの特徴が地域の魅力として同時に発信されるなど、自治体による地方創生の取組みをバックアップするものにもなっています。

さらに、このACMFは「秋田には何もない」といった後ろ向きの気持ちを、「そんなことはない。秋田には豊かな自然・文化、美味しい食べ物、そして何よりも個性豊かな人々がいっぱいいる」という前向きな気持ちに変えていくんだといったメッセージを音楽の力で、まずは秋田の人々に伝えていこうとするものでもあります。それはまさに故内館牧子さんがずっと訴え続けていたメッセージでもあります。

また、このACMFが「温かみのあるフェス」と言われるのは、主催者だけでなく、地元の人たちも誇りをもって、県内外から来られたお客さんを歓迎しようとする気持ちでいっぱいだからだと思います。そしてそれが地元の人々の自信になり、延いては自分自身を肯定する気持ちへとつながっていくことになる、それこそが今回のフェスの最大の効用であり、意義だと私は思います。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。